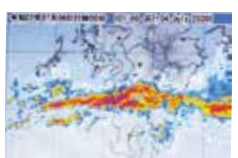


# 終活

## 気象庁が発生の半日前に予測 6月から「線状降水帯」 発生予報を発表



4年前の西日本豪雨では門司区奥田

の土砂災害で高齢者夫婦が逃げ遅れて亡くなりました。これは、「線状降水帯」が原因です。

気象庁は、豪雨災害をもたらす線状降水帯から住民の命を守り、早目の避難を促すための新予報を開始します。今回は新予報の内容を紹介します。

### Q ニュースで聞く 線状降水帯ってなに？

**A** 2014年に広島市安佐地区で74名の死者を出した土砂災害の要因が「線状降水帯」であったことから、この気象用語が注目され始めました。

線状降水帯の正体は積乱雲（入道雲）で、夕立のような強い雨を降らせません。この積乱雲が連続して発生、上空の風の影響で下図のような組織化した積乱雲群となり、数時間にわたって同じ場所に停滞し帯のように連なる雨域を線状降水帯といいます。

### Q ゲリラ豪雨と どこが違うの？

**A** 大気的不安定な状態によって限られた地域で突発的に激しい雨が降ることから「ゲリラ豪雨」と呼ばれていますが、気象用語ではありません。

天気予報では「局地的大雨」と呼ばれ、一時間程度でおさまりますが、線状降水帯は長時間の大雨を降らせ甚大な被害を生む要因となっており大きな問題点です。

### Q 近年発生した 線状降水帯の被害は？

**A** 2018年7月の西日本豪雨では、河川の氾濫やがけ崩れが発生し、死者・行方不明者は200名を超えました。

北九州市でも7月5日から降り続く線状降水帯で256件のがけ崩れが起

こり、門司区奥田の斜面住宅地では土砂災害で高齢者2名が亡くなりました。

20年7月の九州豪雨では、上図の熊本県南部に東西280kmにおよぶ線状降水帯が発生、13時間近く停滞し続け24時間で約500mmという激しい豪雨をもたらしました。

平年の7月に降る1ヵ月分の降水量で球磨川が氾濫し、特別養護老人ホームの入所者60名以上が犠牲になるという近年最大規模の線状降水帯でした。

### Q 線状降水帯の 発生予報はいつから？

**A** 集中豪雨の6割以上が線状降水帯によることから、気象庁では本年6月1日から線状降水帯予測を開始しました。

全国を関東甲信・東海・九州北部など11のブロックに分けて、発生の可能性があると判断できた場合に、半日前に情報提供します。

気象庁は昨年6月から線状降水帯の発生を速報する「顕著な大雨に関する気象情報」の提供を始めるなど下準備に尽力してきました。

### Q どのようにして 発生地域を予測するの？

**A** 東シナ海から太平洋上で発生する水蒸気量を観測するため、湿度計や船舶数の増加など陸海空の観測体制の強化を図る一方、スパコン「富岳」の活用による分析精度の向上に努めるなど予測技術の確立に取り組んできました。

今後は予測プログラムを改良しながら、24年には都道府県単位、29年に市町村単位までの予測をめざし更なる精度向上を図っていく考えです。

早期予測の確立で早目の住民避難が実現することを切に期待しています。

シニアスタッフ 上田篤彦

